



— 企画展 — 大正ロマン・竹久夢二展

## 「婦人グラフ April Fool」



作品名「婦人グラフ April Fool」大正 15 年（1926）  
4 月号 表紙絵 国際情報出版社

竹久夢二（1884～1934）は、岡山県邑久郡本庄村（現・瀬戸市）の竹久家の4人兄妹の次男として生まれ、名は茂次郎といいます。17歳で上京し早稲田実業学校に苦学しながら通い、21歳の時に『中学世界』に夢二の名で投稿した作品「筒井筒」が1等になり、翌月には学校を中退し投稿家生活を始めました。25歳の時に出版した『夢二画集 春の巻』が好評で、続けて『夢二画集』シリーズを発表し人気作家の仲間入りをします。夢二の作品は、出版界を通して庶民階層から圧倒的な支持を受けました。

120年経った今日でも夢二の人気は高く多くのファンを魅了しています。夢二の人生は映画やTVドラマ化され、展覧会は毎年どこかで必ず行われ多くの冊子に夢二の人生、芸術論などが書かれています。これからも夢二の作品は時代を超えて多くの人々を魅了するでしょう。

図の作品は、大正13年（1924）から昭和3年（1928）までの4年間に55冊出版した婦人クラブという雑誌で、夢二の作品は毎号その表紙を飾っていました。作品名は「April Fool」（作

品中には「APL・FOOL」と書かれている）です。椅子に座っているのは、当時銀座で流行していたカフェの女給です。女給の手には目を隠すマスク、天井からはブドウの房がデザインされた照明と提灯が吊されています。丁度、女給の方にシルクハットに蝶ネクタイ、スーツ姿の男性が花束を持って近づいて来るところです。これから始まるドラマの前触れのようなのです。

（学芸員 市川 信也）

### 「金子次郎さんの水彩画」

アトリエで「キャンパスに向かっているときが楽しい時間です」と話してくれた金子次郎さんは、今年で90歳。今までに描き上げた作品は、1,500点以上にものなるそうです。「これからもまだまだ作品を描き続けます」と元気に話していました。

那珂川より那須山遠望



ミニ  
ギャラリー



夕暮れ時武茂川のつり橋